



第10章 講演会その他の活動

坂江, 渉 ; 前田, 結城 ; 古市, 晃 ; 吉川, 圭太 ; 木村, 修二 ; 兒玉, 州平 ; 市澤, 哲

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 12(平成25年度事業報告書):41-43

(Issue Date)

2014-03-31

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005565>



て、これまで主に調査を行ってきた丹波市内の現地の施設を会場にした現地説明会を開催した。まず、4月21日には同市山南町金屋地区の金屋公民館を会場に「古文書からみた金屋の江戸時代—『金屋村記録帳』を中心に—」と題した講演を行った。さらに、11月24日には、同市氷上町香良地区の香良公民館において「江戸時代の香良村字向島をめぐって」と題した講演を行った。

また、2013年12月29～30日には、本科研への協力を交えた第4回目の研究会を開催（於神戸大学）し、研究代表者の木村、研究分担者の松下正和に加え、研究協力者の森元純一氏（岡山県和気町職員）、河野未央氏（近大姫路大）、井上舞氏（当センター）が研究報告をおこなった。

（文責・木村修二）

平成25年度科学研究費補助金・若手研究 (B) 吉川圭太「近現代日本社会運動における在野法曹の史的研究」

本研究は、本年度より3年間の期間で採択を受けている。本年度は、石巻文化センター及び法政大学大原社会問題研究所の所蔵資料のうち、すでに調査・撮影収集済みであった資料の整理作業を進めた。また、富士見市立中央図書館渋谷定輔文庫資料の調査・撮影を行った。

研究成果としては、部落問題研究者全国集会（2013年10月27日、主催・部落問題研究所）などで報告を行った。（文責・吉川圭太）

— 第10章 —

講演会その他の活動

兵庫県立考古博物館の特別展連続講座

2013年4月27日、考古博物館の特別展の会期中（4/20-6/23）の関連企画として設けられた連続講演会で「播磨国風土記の世界 — 神話と伝承 —」と題する講演をおこなった。（文責・坂江渉）

兵庫県いなみ野学園での講演活動

本年度は兵庫県いなみ野学園において以下の日程、タイトルで講演をおこなった。①2013/5/2「明治維新と播磨 — 姫路藩にとっての版籍奉還を考える —」、②12/6「明治維新で社会はどう変わったか? — 木下真弘『維新旧幕比較論』を素材に —」。（文責・前田結城）

兵庫県立歴史博物館の開館30周年スペシャル企画の歴史講演会

2013年5月12日、「播磨国風土記からみえる古代の社会」と題する講演をおこない、賀毛郡条にみえる「悲劇の美女伝承」から浮かび上がってくる古代社会の特質について述べた。（文責・坂江渉）

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館研究講座での講演

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館の依頼を受け、同研究講座において2013年6月9日（日）、「5世紀の王宮を探る — 王宮・王族・叛逆伝承 —」と題して講演を行った。（文責・古市晃）

兵庫県いなみ野学園での講演活動

2013年6月10日、兵庫県いなみ野学園において、「民衆運動と近代日本 — 日朝間交流の一断面 —」と題して講演を行った。（文責・吉川圭太）

新宍粟学講座の講演会

2013年7月6日、宍粟市センターいちのみやで開かれた同講座で、「播磨国風土記に書かれる地名の話―宍粟郡―」と題する講演をおこなった。

(文責・坂江渉)

多可町おもしろ歴史セミナー第3回講演会

2013年7月7日、多可町的那珂ふれあい館で催された同セミナーの講師として招かれ、「播磨国風土記の地名起源説話―託賀郡―」と題する講演をおこなった。

(文責・坂江渉)

福崎町の第34回山桃忌のシンポジウム講演

2013年8月3日、東京学芸大学の石井正己教授、奈良大学の上野誠教授らとともに同シンポ・パネラーとして加わり、「地域遺産としての播磨国風土記」という講演をおこなった。その後、柳田国男・井上通泰らと風土記研究をめぐる討議に参加した。

(文責・坂江渉)

氷上郷土史研究会での講演

2013年8月10日、丹波市氷上住民センターにおいて、氷上郷土史研究会の例会において、木村修二が「古文書から見えてくる丹波の歴史―氷上町香良を中心―」と題する講演を行った。

(文責・木村修二)

丹波OB大学での講演活動

2013年8月21日、柏原住民センターで開催された丹波OB大学において、「丹波の明治維新―歴史資料からかいまみるその一コマ―」と題した講演をおこなった。

(文責・前田結城)

平成25年度あかし楽講座「明石と海の文化史」

2013年8月31日、あかし楽講座にて、「古代明石史の一断面―ウミガメの上陸・産卵の文化史―」と題する講演をおこなった。

(文責・坂江渉)

生野義拳150年記念特別講座での講演活動

朝来市開催の「生野義拳150年記念特別講座」

において、講座第1回として、2013年9月7日(於生野マインホール)「生野の変をどうとらえるか―新史料の紹介もかねて―」と題する講演をおこなった。当日の様子については<http://www.city.asago.hyogo.jp/0000002922.html>を参照のこと。

(文責・前田結城)

播磨町郷土資料館・第107回歴史講座

2013年9月8日、兵庫県立考古博物館で開かれた同講座の講師として招かれ、「播磨国風土記に描かれた賀古郡―吉備・阿閑津・住吉大社―」と題する講演をおこなった。

(文責・坂江渉)

風土記勅撰―三〇〇年記念事業シンポジウム「語り継ぐ『風土記』日本の原風景―三〇〇年に刻む』での講演・パネルディスカッション

茨城県行方市企画政策課の依頼を受け、シンポジウム「風土記勅撰―三〇〇年記念事業シンポジウム 語り継ぐ『風土記』日本の原風景―三〇〇年に刻む」において2013年10月6日(日)「古代王権と播磨国風土記」と題して講演を行い、パネル・ディスカッションに参加した。

(文責・古市晃)

神戸大学ホームカミングデーへの参加

2013年10月26日(土)、第8回ホームカミングデーにおいて、地域連携センターの活動を紹介したパネルを設置し、また2013年度までにセンターが刊行した書籍・ブックレットを紹介したほか、パンフレット等を配布した。当日は多くの卒業生が訪れた。

(文責・兒玉州平)



鳥根県松江市の風土記フェスタ・公開シンポジウム 「風土記研究の最前線」での講演

2013年10月27日、鳥根県松江市で開かれた同シンポジウムに参加し、「播磨国風土記の魅力―「国占め」神話と「荒ぶる神」―」という報告をおこない、他の4氏との共同討議をおこなった。

(文責・坂江渉)

神戸大学厳夜祭への協力

2013年11月9～10日、本学の六甲台第1キャンパスにて開催された厳夜祭へ、当センターの活動の概要を記したパネルを展示した。これは6年前から引き続くもので、同実行委員会が企画した「学生・地域交流企画」の趣旨に賛同したものである。

(文責・坂江渉)

尼崎郷土史研究会での講演活動

2013年12月19日、尼崎郷土史研究会において「明治維新期における尼崎藩儒服部元彰の封建論」と題した講演をおこなった。会場は尼崎市立小田公民館。

(文責・前田結城)

加古川市立中央図書館の読書講座「風土記からみる古代の播磨」講演

同講座の講師として招かれ、2013年12月13日に「地名のつけられ方といわれ話」、2014年1月10日に「神話と祭り―丹後と播磨の天橋立伝承―」という講演をおこなった。

(文責・坂江渉)

やしろ鴨川の郷講演会「播磨国風土記」

2013年12月17日、同講演会に招かれ、「播磨国風土記と古代の賀毛郡―動物と信仰との結びつき―」というテーマで講演会をおこなった。

(文責・坂江渉)

地域連携協発表会への参加

2014年1月30日(金)、平成25年度地域連携発表会(神戸大学瀧川記念学術交流会館)において、人文学研究科地域連携センターの活動について報告を行った。

(文責・市澤哲)

TAMBAシニアカレッジでの講座

2014年1月31日、TAMBAシニアカレッジ教養講座(丹波市山南住民センター)において、木村が「小字にみる氷上郡の村と土地―中世から江戸時代、そして明治時代へ―」と題する講演を行った。

(文責・木村修二)

フォーラム「北播磨の風土記ものがたり」での講演・パネルディスカッション

兵庫県教育委員会の依頼を受け、2014年2月8日(土)、「フォーラム 北播磨の風土記ものがたり」において「播磨国風土記をどう読むか」と題して講演を行い、パネル・ディスカッションに参加した。

(文責・古市晃)

大阪労働協会文化芸術サロンでの講演

NPO法人OSAKAゆめネットの依頼を受け、大阪労働協会文化芸術サロンにおいて2014年2月17日(月)、「蘇我氏興隆の背景を探る」、3月3日(月)、「聖徳太子の事績と蘇我氏」、3月17日(月)、「蘇我氏はなぜ滅んだか」とそれぞれ題して講演を行った。

(文責・古市晃)

文化財保存全国協議会での講演

文化財保存全国協議会の依頼を受け、「甘粕健先生追悼記念講演会「考古学・古代史研究と古代遺跡」」において2014年3月8日(土)、「王宮からみた倭王権の成立過程」と題して講演を行った。

(文責・古市晃)

和歌山県立博物館主催企画での報告

2014年3月16日、印南町公民館(和歌山県日高郡印南町)において、和歌山県立博物館主催現地学習会「歴史から学ぶ防災―印南町をフィールドにして―」が開催され、報告者の一人として木村修二が「白浜町富田地区に残る津波警告板」と題する報告を行った。

(文責・木村修二)